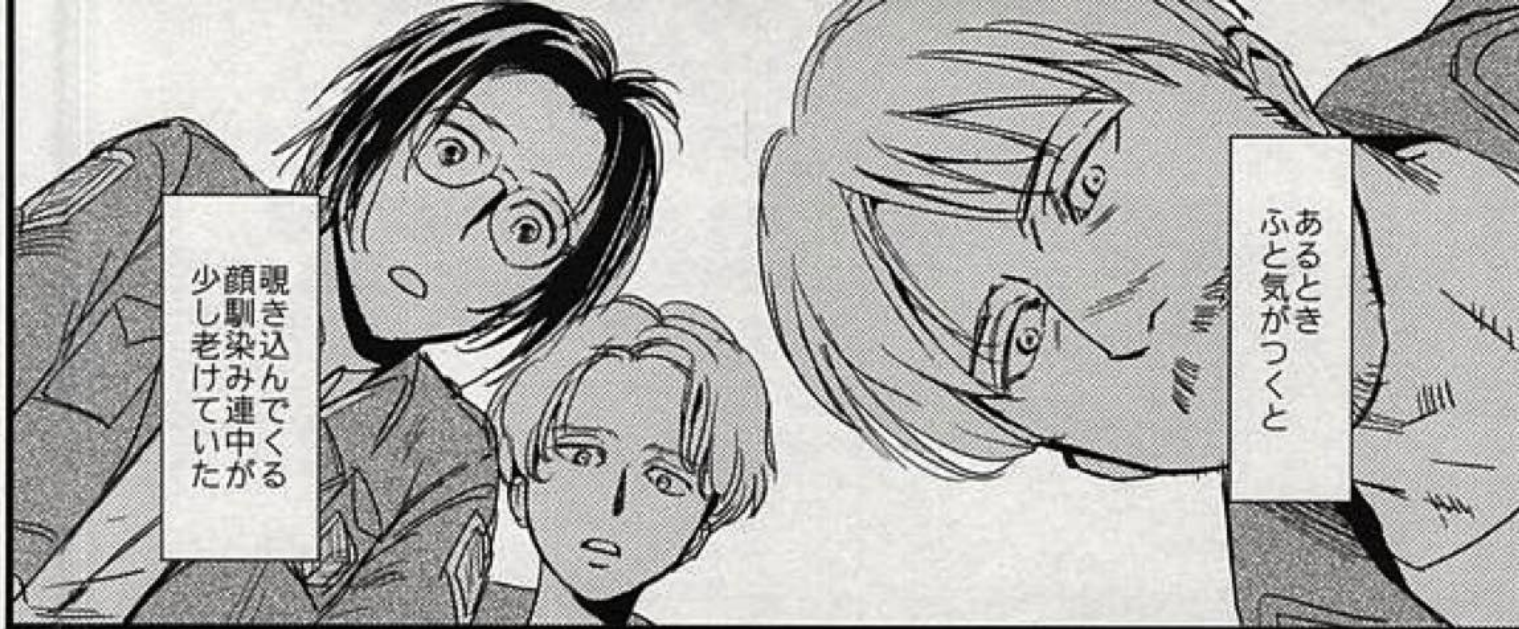




い る う へ い ち り う へ い

酔いては君と
醒めてはお前と



覗き込んでくる
顔馴染み連中が
少し老けていた

あるとき
ふと気がつく



嘘っ
マリア
崩れてから
遠征陣形と
色々変わった
んだよ

ええっ
壁外調査まだ
二回しか行ってない!!
やだあ
もしかして
イルゼの手帳も
覚えてないの?

とりあえず
エルヴィンには
言っておけ
今あいつが団長だ



いつのまにか
ウォール・マリアも
破壊されていて
情勢は様変わり
していた

転んだおまの
入団後

なにこれ
大分おかしな
話

ん
ん



まあ...あいつが
団長に
なっちまったなら
仕方ねえな...

いのがな
エルヴィンが
手帳を盗んだ



そうだな...
今晚おまえが
全く声をかけないと
あいつ拗ねるかも
しれんしな...

?



あいつかよ...
中央に行くって
戻ってくるの
夜だよ
明日にしとく?

いやあ
エルヴィンの
早いほうが
いいって!
今晚行け!



どうした
私の部屋の
前で

しかも随分
懐かしい服だな

リヴァイ

本当に遅え帰りだな
日付が変わりそうだな

お疲れのところ
すまねえが……

できれば今晩中に
伝えておいた方が
いいと思うてな



相変わらず
愛想のねえ
野郎だ

うむ

そうか
入れ

ありがとう
リヴァイ!

!?

こんな遅くまで
俺が戻るのを
待ってくれるとは

.....
は

.....
ううう?

夜の廊下は
もう冷える
だろうに

おまえの
情の深さには
いつも感動
させられるよ

今日という日に
王都出張になって
侘びしい誕生日で
終わると
覚悟していたんだ

た 誕...??

だが
おまえのおかげで
最高の夜になるよ

!?

ちょ

ああ
ピクシス司令に
付き合われてな

いや俺は
てめえの帰りを
待ってたんじゃ
なく
いや待っては
いたが
そういう
意味でなく

酒くさ!

わかった理解した
てめえは酔ってる
またにしよう!

俺の用事は
大事な内容だ
素面じゃねえと
できねえ

リヴァイ
心配するな
おまえの
真摯な気持ちに
応える準備なら
俺には充分にある

自慢じゃないが
俺は酒が入っても
思考と判断能力に
乱れはないぞ

嘘だ!

てめえのような
お高くとまって

とか言ってる
野郎に
こんな酒癖が
あったとは
面食らったが

今この手を離せば
明日には
全て忘れてやる
だから早く

ははは

まいったな...
また昔のことを
後半ちまはないよ

殺す!
殺す!
てめえ
殺す!!

いやあ
誕生日を
祝ってくれるなら
急ごうと思つて

.....はあ!?

はああ!?

なんもん知るか
図々しい!

殺す気失せてたが
酒癖セクハラ野郎
知った今は
やっぱり殺す!!!

!!

.....!!



またまた

酒癖だの
セクハラだの
つれないな

出張前夜のベッドでは
あんなに可愛く
サービスしてくれたのに
今日は何をすねてるんだ？



お俺が
てめえと
寝るなんて

てめえみてえな
いけすかねえ奴に
なんで俺が

今の……
言い草だと
まるで……

まさか
そんな



ま

待て

待ってくれ

本気で待て

俺……俺は一体

今まで
どういう……



リヴァイ……

なるほど
そういう趣向か

だま

いい設定だなあ

まだ
俺に事あることに
突っかかってきた頃の
おまえってシチュウか？

ちょ

そういえば
そんなふうにあ
襟立ててたなあ

あの頃のおまえに
手を出すなんて
命がけだな
縛っておいても
いいかな？
するぞ

ままま待て！

設定じゃ
ねえ！

ヤスシロ
カニ

おいっ
てめえこの
金髪野郎！

ああそれ
懐かしいなあ

眉毛以外の
綽名は珍しくて
実は嬉しかったよ

ととにかく
酔いを醒まして
話を...

今聞くと
おまえあの頃から
俺のこの頭
気に入ってくれた
んだなあ

ふっ...ざけんな
こんな
めでてえ頭の
どこを...





あれ？

どーでも
いいような
よくないような

やっぱり
どうでもいいが
微妙にむかつく
ような……

むかつくって
なんだ俺……



こらこら
暴れるな

触んな
このっ……

金ば……
エルヴィン！

なあに
問題ないさ

あ

俺は本当に
全く今までの
ことを……



あっ…



おまえは
ここが弱くて

ちょ

乗り気で
ないときも

ほらな
膝がゆるむ

う
うぞ…

ほら身体は
覚えてるじゃないか

???

うわ



心配だよ
他の連中が
気付いたらと
思うと……

う……

うそだろ

うそだろ
オイ……!

ん



俺本当に

ははは
素直な身体
だなあ

こんな奴に
黙って
こんなマネ
させてたのか？



いっそ
泣きてえ…



いけ好かない男
相手にこれじゃ
俺としても困るな
リヴァイ



なんで俺まで
臨戦態勢に
入ってたんだ…



というか
冗談じゃねえぞ



人の気も
知らねえで
この下よ
あたってる
質量は
久々に
恐怖感じる





まあそれくらい意地は見せて貰わないとな

うわ!

なんだここで抵抗するのか

嫌いな男という設定なんだから



中には挿れないでやろうかな

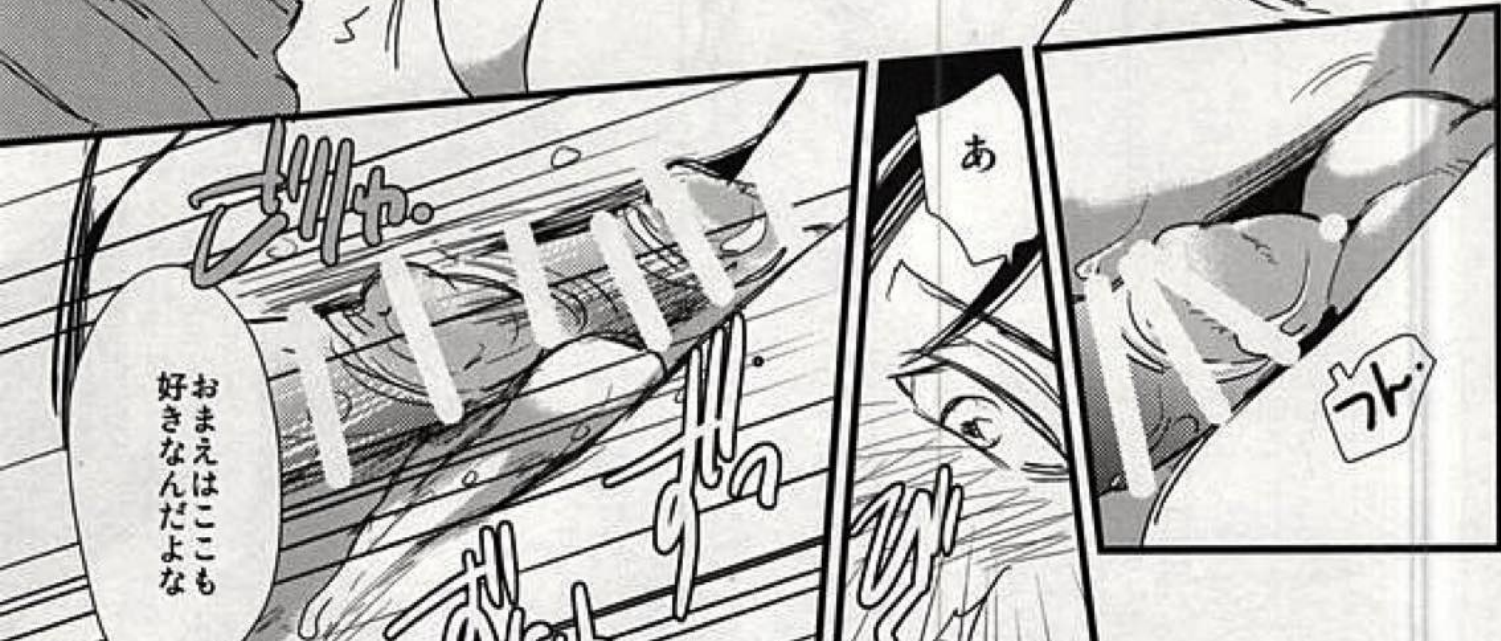
よし…

そんなに嫌なら



やめろ…

本気でそいつは…



おまえはここも好きなんだよな

あ

は



中とどちらがイイか
考えてくれ

んあ

あ

あ

初めて見た瞬間から
むかつく奴だった

このクン野郎…

や……

いやだ…

だがそれも

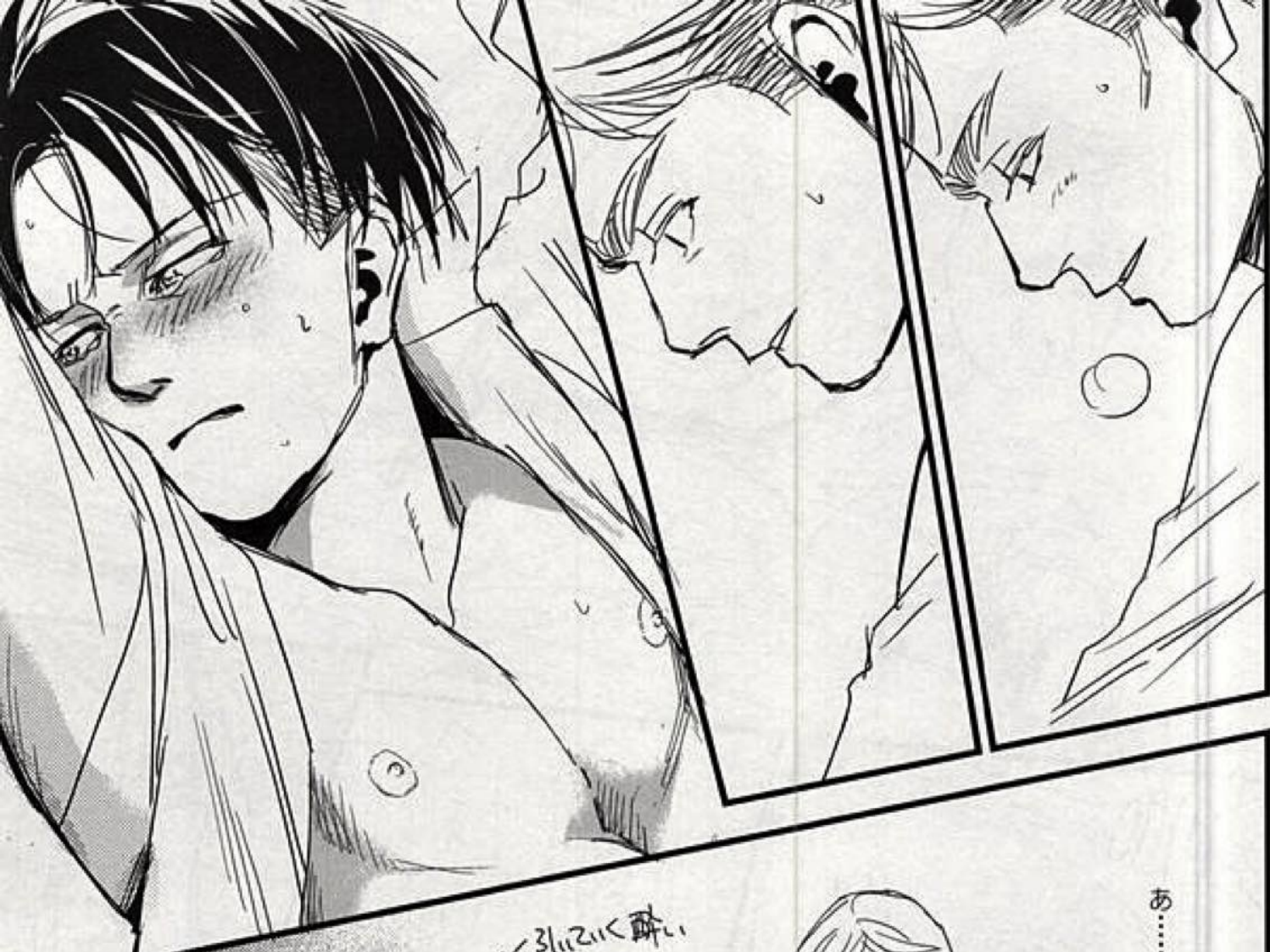
…それでもねえかも
…と思いついた矢先
…だったのに…

いや
本当はあれから
ずいぶん時間が
経つてるらしいが

やっぱり
ろくでなしだった
んじゃないかね

なんで俺は
こんな野郎と
寝てもいいなんて

思ったんだ…



← 31.211く酔い

あ……………



いや
もしかしなくても
最近の記憶を
本当に
なくして……る？



ここまで
演技派ではない
はずだが……



あれ？

真面目に……
涙目？

とりあえず
まだ酔ってる
フリして
最後まで
ヤッてしまおう

ああっ



すまん
リヴァイ

出してから
謝る!

挿れないって
言いたくせに

てめ…



うあ

い…



心配するな
おまえの
ツボどころは
心得ている

んん

俺の逸物で
きつとおまえの
身体が思い出す
はずだ!!

ぐっ…

ふ

ふ

く…

んん

アッ

…あ

今のおまえは知らないだろうが
俺は前立腺の位置も
好きな責め方も
検分済みだ！

は

やめ…

あ

ふ

あ

んっ…

あ！

あ

うあ

やだ…

あ…
こんな…

おまえの腸壁全体が
すぐに性感帯に
変わる

おかし…
こんな…

あ

おかしくなっ…

あ

そうだ、ここが
俺の逸物の形に
なっていたことを
思い出すんだ！

は

は

死んじま…

ふ

思い出しませんでした



いや本当なんだ
というか
おま...君の方が
積極的でだな

俺があんな
えげつないの
触ろうとする
はずがねえ



そう
あのときの君は
実に果敢だった

私もさすがに
挿入は遠慮しようと
思っていたんだ



.....その

誓って言うが
初めてのときは
合意だったんだ

謝、ない

ゴーカーンする奴は
皆そう言う



記憶戻りました

77x1

**2015 October
for Erwin Borch
AD7 Fanfic book #06**

